

(1) 基本的に

邪毒の排出という視点から、色々な病に応用できる。

皮膚は、最も原始的な排出器官で、アメーバなどの単細胞生物の細胞膜に相当。単細胞生物では、エサを取るなどにも関係する。が、人間の病気を考えるときは、排出と関係が深く、進化で複雑な生物になってから発達した解毒排出の専門器官が機能低下したときに、その代わりに働く。漢方の用語で言えば「汗吐下和」の汗をかいたり、吐いたり、呼吸や鼻水で出したり、痰で出したり、下痢下血したり、肝臓や腎臓で処理して大小便で出したりするのが、普段に働く解毒排出。そういう機能が低下したり、量が多すぎて間に合わなくなると、ニキビ、化膿、湿疹、黒ずみ、蕁麻疹などで出そうとする。

治療の目標は「艶やかに」。上衝を下げることで、邪毒の排出を進めることが治療の中心。痒みの緩和には精神症状の安定も効果的。

色々な形で邪毒が排出されると一気に良くなることが多い（瞑眩？）。驚く人もいるので、事前に丁寧に説明しておくことが大切。汗、涙、鼻水、鼻血、下痢下血、大小便、瘡蓋、痰などの形が多いが、苦い水を吐くことや、湿疹が一時的に酷くなることもある。普段よりも、臭気強く、色濃く、ドロドロ、ベタベタ粘りけが強いことが多い。

汗で出すか、指などの末端から邪気の形で出すのが、体にはラクなようだ。が、現在では、汗をかきにくかったり、邪気が脇の下から上腕に溜まってしまって出にくい人が増えている。パソコンや携帯電話による電磁波や、添加物などの化学物質の影響か？

(2) ツボの出やすい所

1. 上衝を下げる・・・手足陽明

上衝が慢性化していることが多いので、上腕の陽明を灸でよく使う。肩隅、臂臑、上曲池など。足陽明なら、足三里。急性症状には、合谷や指のツボ。ズレることもあり凹んで圧痛のある所を探す。

2. 邪毒の排出

邪毒の種類によって、横輪切りや該当経絡を探す。

邪気なら、鼻は頸椎3-4、喉は頸椎6-7、上焦では胸椎2-4の高さ。慢性なら肩貞、体前側では臑

中。経絡的には手陰経。邪気が脇の下～上腕に溜まっていたら、少陽経や手甲など。

水毒なら、横輪切りでは、中焦の背7-9-11の華陀経に多く、痞根にも出る。表位の首肩の痼りを弛めると、水毒が汗で出やすい。経絡的には、手の太陰、足の太陰・陽明。

瘀血なら、下焦の腰椎3～仙骨の周り、下腹。経絡的には、足厥陰。

詳しくは、実技編【2】養生の邪気、水毒、瘀血の項目を参照。

3. 精神安定

頭の中のブヨブヨした所、百会とその周り、正営、承靈など。アトピーの痒みに効いたという症例報告が多い。経絡的には、陽明(上衝)、太陽(表位)、厥陰。詳しくは>>>[4]心を鎮める

(3) 手順

上衝だけか、どの邪毒が中心かがポイント。

1. 応急

上衝だけなら手陽明の灸。例：ニキビに、肩隅、骨空の灸

排出されるべき邪毒によって、体幹部や他の経絡のツボを探して、手甲に引いた後に、必要なら手陰経に引き、頭・首肩・背腰から足裏、足陰経・足陽経の順で施術。上焦が強い時や頭に熱い所がある時は、頭散鍼と手甲への引き鍼で、後始末。

2. 慢性期

慢性期の型で施術した後に手陽明の灸。

灸中心なら、座位→うつ伏せ→仰向け。

自宅施灸も勧める。基本は、肩隅・上曲池・足三里で、水毒の排出には、背7-9-11、中腕など。瘀血の排出には、中極、上仙、蠡溝など。

要点

- ① 皮膚は原始的な排出器官、汗吐下和を代替
- ② 上衝降下・邪毒排出で、皮膚を艶やかに
- ③ 自宅施灸や、野草茶を始め食養も勧める